

市長の言・ちまたのニュース

第37号

2021年2月21日
日本共産党根室市委員会
根室市宝林町4-203
TEL 23-6023
FAX 24-1684

低い日本の子ども「幸福度」?

昨年9月ユニセフイノチエンテイ研究所の「レポートカード 報告書」16」が発表されました。この報告書は、子どもたちに影響する世界 先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」で、日本の子どもの「精神的幸福度」は世界で下から2番目という衝撃的な調査結果が出されました。「レポートカード16」の一部を紹介し、そのレポートから日本の子どもたちの現在置かれている「姿」について考えて見たいと思います。

子どもを取り巻く世界

レポートは、子どもの幸福度を測るのに、子どもを取り巻く多層的な世界環境(を分析しています。

まず、子どもたちの保護者の働く環境が子どもの生活の質に影響をあたえること。子どもを成長させる「資源」の一つの指標に家に学校の勉強に役立つ本があるか。「子どもの行動」では「より多く外で遊ぶ子どもの方がより幸せ」という結果も出ています。「子どもの人間関係」では、いじめ、学校への帰属意識と生活満足度などの指標を分析し、多層的な分析により、「幸福

度」を「精神的幸福度」「身体的幸福度」と学力や友だちが直ぐできるかなどの「スキル(技術)」の3つの面から分析しました。

両極端な結果に

日本の子どもたちの「身体的幸福度」は、1位です。身体的幸福度「乳幼児死亡率、肥満などの過体重などの要素。一方精神的幸福度」は、先進国中の下から2番目。「スキル」では、「読解力 数学の分野の学力」は、トップクラス。なのに、「学校ですぐに友達ができる」「自分の満足度」「自殺率」

などで指標が先進国中の下位。

筆者の友人の孫さんは、親御さんの仕事でインドの「ナショナルスクール」に通っていたそうです。その孫さんが「日本人の友達は、『面白くない』と言っているそうです。この意味の詳しい事を書けませんが、日本の子どもたちの成長を取り巻く環境が国際的にみて歪みがあるように思えます。今の日本社会のあり方が問われている様に思えてなりません。



「森発言」から思うこと

オリンピック組織委員会の森喜朗元会長の「女性蔑視発言」問題は、日本社会が「ジェンダー問題」などで遅れた国である姿が、国内外に明らかにされました。今号は、ここから見えてくる日本のスポーツ界や私たちを取り巻く日常のことで私が感じている「問題」を徒然(つれづれ)なるままに書いてみました。

「異論」排除の傾向強く

森喜朗氏の「女性蔑視発言」によって、日本社会の「ジェンダー問題の後進性がいっそう明らかになりました。ちなみに、ジェンダーギャップ(男女間格差)指数は、先進国中最下位。世界ランク2020年で121位です。同時にスポーツ界でも、自由にもモノが言える環境は、ひどく遅れていることを実感します。私が所属していたスケート連盟も例外ではありませんでした。道連盟の理事を数年間経験しましたが、「提案」に「異論」を挟むと白眼視されたものです。最近は少しずつ改善されつつあります。森会長の辞任を契機に社会のあり方が進歩的に発展する



「女性のひろば」3月号

「ジェンダー(社会的・文化的につくられる性別)」「平等、一人ひとりが人間として尊重され、多様性を最も重要視する社会をつくる。この「人類史的価値」を真に理解・実践することとは、「民主主義」の最高の到達点と考えます。森会長の辞任を契機に社会のあり方が進歩的に発展する

神忠志の勝手気ままな料理レシピ

乾麺でも玉ウドンでも1玉	レンジで温泉玉子1個
納豆かき混ぜ、レタスちぎっておく	ゆでたウドンにレタス、納豆その上に卵、めんつゆ、ごま油適量を
添え)1人前	